

会派視察・研修報告書

会派名 自民クラブ

代表者名 嶋内 九一

1 日 に ち	令和 6年 2月 7日 (水)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	茨城県 常陸太田市
3 参 加 者	嶋内九一、若尾敏之、城處裕二、玉置真一、加藤智章
4 調査・研修の テーマ	移住定住施策について
5 主な内容	①移住定住政策の背景 ②移住定住政策の内容 ・体験する 内容と実績 (金砂ふるさと体験交流施設「かさな笑楽校」) ・住 む 不動産情報 定住促進住宅 官民連携について ③移住の実態・実績

<p>6 所感、提言事項、課題等</p>	<p>【嶋内九一】</p> <p>常陸太田市は、地方自治体として人口減少や高齢化に対処するために、移住定住政策等様々な取り組みをされておられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.移住支援センターの設置：市内に移住支援センターを設けて移住希望者や新規移住者に対して情報提供や相談支援。 2.住宅支援策：住宅の供給や改修、賃貸住宅の整備などを通じて、住みやすい環境を整える。 3.就業支援：地域の産業振興や雇用創出を図ることで、移住者や地域住民の就業機会を増やす。 4.地域活性化イベントの開催：地域の魅力を発信し、地域コミュニティの活性化を図るためにイベントや観光プログラムを開催することで、地域の魅力を再発見し、移住希望者を呼び込むことが期待される。 5.教育・医療・福祉の充実：地域の基盤となる教育機関や医療・福祉施設の充実等、子育て世代や高齢者のニーズに応える施策も重視されている。 <p>まとめ</p> <p>多治見市としては、移住支援センターなどの環境は整備できていない為、住宅支援でフォローするしかない。就業支援については、まだまだ常陸太田市のように雇用創出を図ることはできず、就業訓練や求人情報提供までにとどまると思われる。地域イベントの参加や地域コミュニティとの関わりについての懸念はない。そして教育、医療環境については、子育て世代や高齢者にも高いサービスを提供できると思う。</p> <p>【若尾敏之】</p> <p>常陸太田市は茨城県の北東部に位置しており、人口は約4万5千人、「住みたい田舎ランキング」全国総合部門3位、北関東で総合1位のそばが有名な魅力ある田舎町である。今回の視察対応は、田舎暮らしトリアルハウス「勉知庵」で行われました。会場には藤田議長がわざわざ来てくださり挨拶を頂きました。</p> <p>勉知庵は、古民家を改築・増築した木造2階7DKの移住体験ができる施設であり、隣に陶芸工房も備えている。利用料金は1日2,000円（8日目以降は1日1,000円）（共に高熱水費込み）で1週間～4週間で体験できる。対象者は、常陸太田市への移住を考えている市外の居住者で簡単な日誌の記入やアンケート調査への協力が求められている。常陸太田市には他に田舎暮らしトリアルハウスが「Jinba」「Machiya」の2箇所あり、田舎暮らしの体験で気に入ったら移住してもらおう施策である。この取り組みにより今まで96組が延べ1,361日利用し7組の移住に成功している。また短期的取り組みとして平成20年3月に廃校となった小学校を利用して宿泊可能な金砂ふるさと体験交流施設「かなさ笑学校」を開設し、そば打ち体験やバーベキューを楽しく体験することができ、移住・定住施策を後押ししている形になっている。</p> <p>体験ハウスを通じて移住・定住者を増やす取り組みとコンセプトが田舎暮らしという点は笠間市と同様であり、コンセプトに見合う移住・定住者に絞った取り組みが効果を上げている。多治見市の施策に大いに参考となる視察であったと思いました。</p>
----------------------	---

【城處裕二】

常陸太田市は、東京から約 2 時間・茨城県の北東部に位置しています。合併により 62,000 人だった人口は、現在約 46,000 人と著しく減少しており、少子化・人口減少対策が喫緊の課題となっています。移住定住ポータルサイト『じょうづるライフ』では、田舎暮らしの魅力をメインに発信しています。お試し居住事業・田舎暮らしのトライアルハウスとして 3 か所の施設を運営しています。これも本市で取り組むには少し違うかなと思いました。これとは別に市有地の有効活用として積水ハウスとコラボした『ファミリーユクじらヶ丘』という市外からの移住者で 18 歳以下の子育て世帯に特化した住宅事業は興味深く感じました。子育て世代に着目する本市としては参考になるかと思いません。

【玉置真一】

常陸太田市の移住・定住ポータルサイト『じょうづるライフ』では、知る・住む・働く・体験する 4 つの窓口から住環境、支援制度、居住体験事業などが分かりやすく案内されております。

このたびは、3 施設あるお試し居住体験施設『田舎暮らしトライアルハウス』の一つである勉知庵※にて説明を受けました。

※勉知庵（べんちあん）：市と『一般社団法人いまぼくらと』との協働で運営されている。

常陸太田市は、空き家・空き地バンク（じょうづるホーム）での「売りたい・貸したい」所有者と「買いたい・借りたい」利用希望者の橋渡し、定住促進に係る不動産物件の情報提供に関する協定、市外の方でも入居可能な市営住宅、市有地（宅地）の無償貸し付け・無償譲渡、さらに転入促進助成金 100 万円と隣接する温泉施設の利用券のプレゼント、子育て世帯向け賃貸住宅（ファミリーユクじらヶ丘）を民間企業と一緒に整備するなど、居住について様々な取り組み、支援を行っておられます。

これらの取り組みについて、大変参考になりました。

【加藤智章】

常陸太田市では、空き家の活用促進 空き家の所有者に対して、リノベーションや再利用のための助成金や補助金を提供、移住者への支援として住宅支援や就労支援、移住希望者の興味を引きつける交流イベントの開催など積極的に取り組まれておられた。

今回の視察研修会場である『勉知庵』は、管理人も移住者などで、移住後の暮らしなどを気軽に相談でき、移住を考える方がまず一歩目として、里山暮らしを体験できる施設である。

感想

常陸太田市の空き家対策・補助金の提供や移住定住に対する市の予算の付け方が、多治見市とは圧倒的に違う。専門の課を設けるなど危機感が感じられる。多治見市は、空き家対策・移住定住にしても、常陸太田市のような危機感はない。人口減少対策をしなければいけないことはトレンドとして理解しているが、どこかでまだ本気で取り組んでいない。

人口がいよいよ 8 万人を切るような事態になると専門部署を設置して取り組むのではないかと思う。今はまだ、多治見市の最優先課題ではない気がする。

7 写 真 等
※視察の場合は必須、研
修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。